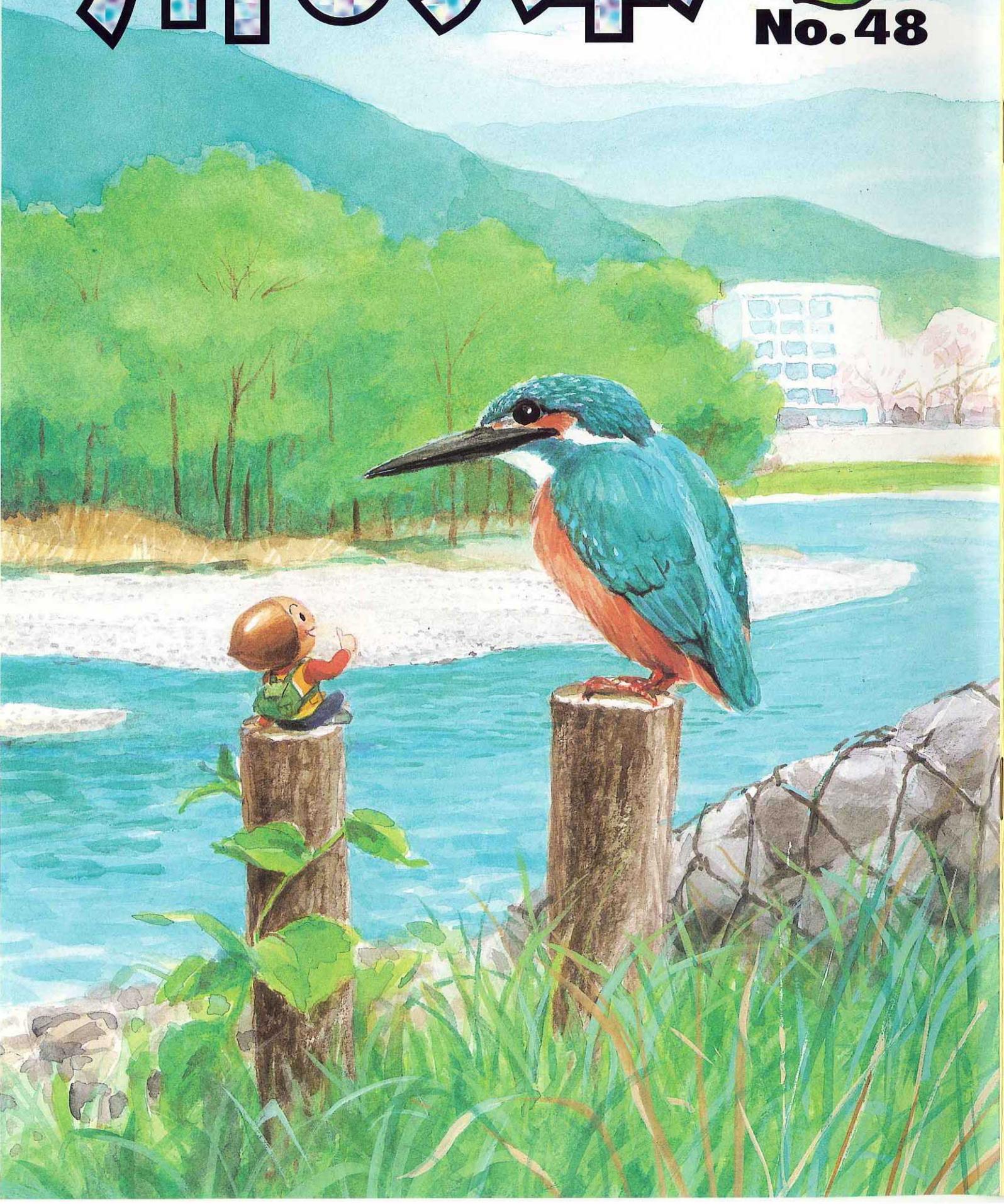


川の本

2000 春の号



No. 48



きつね岩



むかし、太田川が八木城山のすぐふもとを、とりまくように流れていたこのことです。そこでは川のまん中に、大岩がつきだして、太田川の速い流れは、大岩にあたり、しぶきをあげ、うずをまいていました。太田川を行き来する舟がいちばんおそれたところでした。

あるとき、その大岩にへんなうわさがたちはじめました。

「あんな、聞いたかよ、可部から米をはこんできた船頭さんがよ、大岩にぶちあたってな、舟はめちやめちやにこわれて流されたらしいぞ」

「ああ、しつとるとも。そのあと飯室の船頭さんも大岩にあたって沈んだらしい。それだけじゃないぞ、今日も上流の加計からきた舟が大岩にくだかれてな、九人も人が流されたんじや、うそじゃないぞ、わしは梅林の河原まで行って、たった一人助かった人に聞いたんじや」

「へえ、その人、なんて言うとした」

「夜だというのに、あの大岩にな、きれいな女が立ちあらわれてな、からからと笑ったそうよ、それを見てびつくりしたとたん大岩にしようとして、舟もろとも沈んだんじやと」

「なんとまあ、きみのわるい話しじやな」

そんなうわさは、香川勝雄という腕のたつおさむらいの耳にもはいりました。

「うむ、それはなにか化け物のしわざにちがいない、これ以上犠牲者が出るうちに化け物を退治せねばなるまいて」

化け物退治を決心した勝雄は、その夜たった一人で太田川に舟をこぎだし、ぎいこ、ぎいこ、と舟をすすめてゆきました。すると大岩に近づくにつれ、きゆうに天気がわるくなり、風がびゅうびゅうと音をたて、雨にまぎって雪までがふきつけてきました。川も荒れだして、舟ははげしくゆれながら、大岩のある方に向かって、すいこまれるように流れはじめたのです。



「これは、ただごとではないな」と勝雄が心をひきしめたときでした。とつぜんあらわれたのです。すぐ目の前のくらやみに、からからと笑う女の姿がはっきりと見え、舟はみるみる大岩に近づきました。

「こいつだ」と、とつさに勝雄は持っていた舟のカイを

「えいっ」とばかりにふり払いました。
「ぎゃあっ」と悲鳴が聞こえ、ざぶんと水音がしたかとおもうと、舟は大揺れに揺れました。

すると、どうでしょう。今まであれほど激しく吹いていた風も、雨や雪もとつぜんやんで、川も静かになりました。さっきの美しい女のすがたもなくなり、川面に月がゆらゆらゆれて見えるだけでした。勝雄はゆっくり舟を岸边につけました。

「うむ、やっぱり化物のしわざだったか、だが、これでもう安心じゃ」

勝雄は家にかえり、ふとんにはいりました。しばらくねたでしょうか。なにかみょうな胸騒ぎがして目がさめました。とんとん、とんとん、だれかが戸をたたいています。

「この夜更けに、いったい何者じゃ」

勝雄は刀を片手に持ち、戸をあけましたが、まだ外はまっくらです。しかし、よく見ると庭さきの暗がりに美しい女のすがたが見えました。

「わたしは稲荷山のふもとに住む吾平の娘でございます、今夜、父が殺されました。そのあだ討ちをお願いにまいりました」

勝雄はこれは怪しいと思いましたが、そんなそぶりは見せないで、ゆつくりと庭におりて、女のほうへ近づこうとしました。ところが女は後ずさりしてしまします。

「事情を、もう少し詳しく聞きたいのじゃ」

そういいながら勝雄が女の方へ近づこうとしたときでした、後ろの方で、すうっ、すうっとなにかの息が聞こえます。とつさに勝雄は刀をぬくが早いのか「えいっ」とばかりに後ろを切り払いました。「ぎゃあっ」と悲鳴がしましたが、ふりむくと、そこにはなにもいませんでした。庭さきの女のすがたもきえていました。



あくる朝、見ると庭さきから点々と血のあとがつづいていきます。勝雄がそのあとをたどると、稲荷山の薄暗い竹やぶの穴の奥で、荒い毛をした大きな古ぎつねが死んでいました。

勝雄は、ていねいに古ぎつねを葬らうとやり、お経も唱えてやりました。それからというもの、魔物は現れなくなり、太田川の船頭たちは舟を大岩にぶつけることもなくなりましたということ。

太田川の難所ときつね岩

太田川の難所にあつたというキツネ岩は、広島県の八木小学校の校庭に移されて置かれています。この岩がほんとうに船頭さんたちを困らせたキツネ岩かどうかはわかりませんが。

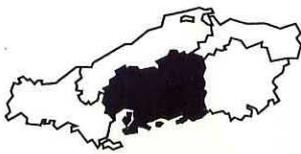
むかしの太田川は、今よりもずっと八木小学校の近くを流れていたそうです。この辺りは、むかしは洪水があふれやすい場所、川の位置も洪水によって替わることがあつたようです。

そうしたところに難所がありました。難所とは、舟にとって危険な場所のことです。トラックや鉄道がない時代では物を一度にたくさん運ぶのには、舟にたよるしかありません。太田川でもたくさん舟が行き来していました。

お話によると、太田川のずっと上流にある山県郡の加計町の船頭さんが人を大勢乗せて下ってきたことになっています。加計からキツネ岩のあつたところまでは、平地がほとんどなく山の間を流れる太田川は急流で、船頭さんは緊張の連続だったのでしよう。そして大きくカーブしてやつと平野にでて、ほつとするとところが難所だったので。ここでは水難事故が多かつたのでしようか、それとも、そこで船頭さんが油断をしないように、こんなお話ができたのかも知れませんね。

現在の太田川は全長103キロメートル、中国山地の冠山から流れ下り、広島市で大きな三角州をつくって瀬戸内海に注ぎ出しています。

ひろしまけん
広島県



ぶんか 文化をつたえる橋

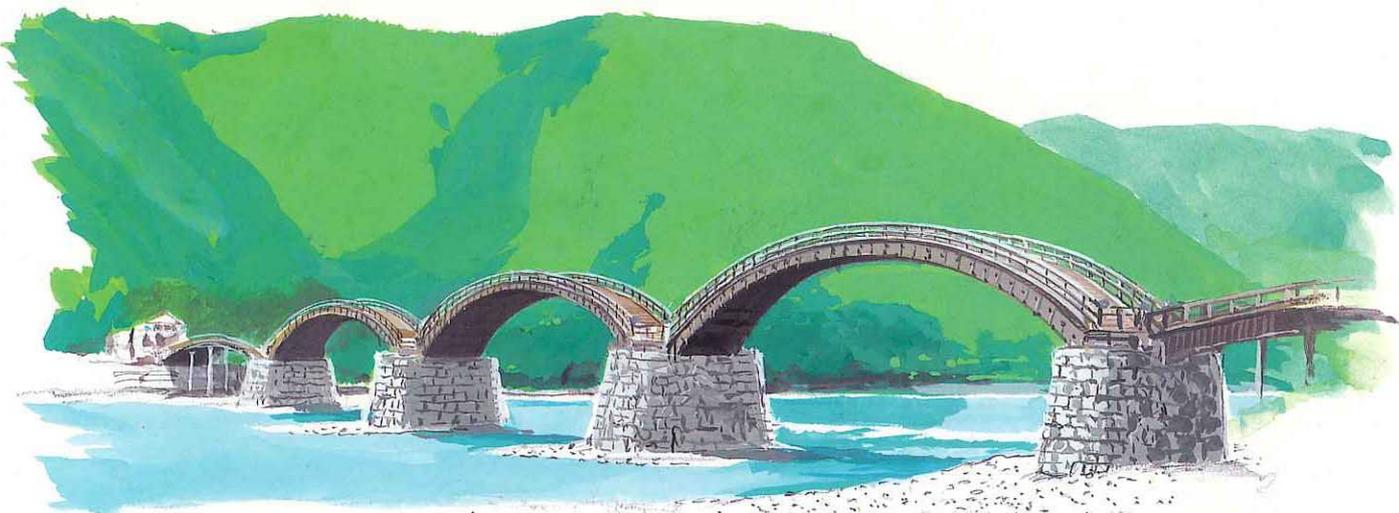
今のような機械力がない時代、川に橋をかけることはたいへん難しいことでした。しかし人々はおどろくばかりの知恵と技をつかって、いろいろな橋をかけてきました。文化財としてのこる美しい橋はたくさんありますが、その中から、めずらしい橋を三つばかりしようかいたします。



おくい や ぼし 奥祖谷のカズラ橋

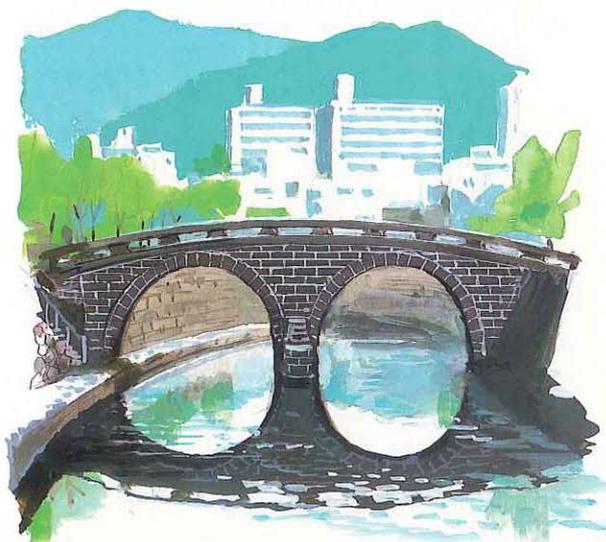
徳島県西祖谷村にあるこの橋は、吉野川の支流、祖谷川の上流部にあります。今から800年ほどむかし、戦いにやぶれた平家の一族がこの地にきてかけたといわれる吊り橋です。敵が攻めてきたときすぐこの橋を切りおとせるようにシラクチカズラでつくられたということです。

めばし おばし
女橋と男橋とがあり、今でも一般の生活に利用されています。



きんたいばし 錦帯橋

岩国市の錦川にかかる錦帯橋は、世界でも類のないめずらしい橋として有名です。5連のうち中央部の3連がアーチ型の木橋です。その優雅な姿から国の名勝に指定されています。今から300年以上も前(1673)に岩国の殿様が洪水にもまけない丈夫な橋をかけたいと、いろいろ工夫した結果うまれた形だということです。



めがねばし 眼鏡橋

長崎市の中島川にかかる石橋です。1634年、奈良の僧侶によってかけられたといわれています。2つのアーチが川面にうつり眼鏡のように見えるので、この名がついたということです。

めがねばし きんたいばし とうきょう にほんばし
眼鏡橋は、錦帯橋 東京の日本橋とならんで日本の三名橋の一つに数えられ、郷土の貴重な文化財として愛され、大切にされています。

かわ 川べにすむどぶつたち

川^{かわ}辺^べで鳥^{とり}はみかけるけど、どうぶつもいるのかな。
さんぽの犬^{いぬ}いがい見^みたこと^{こと}がないという君^{きみ}に、川^{かわ}辺^べのどうぶつを紹介^{しょうかい}しましょう。ここに紹介^{しょうかい}するものがほとんどです。ひるまは巣^すあななどにかくれていて夜^{よる}に活動^{かつどう}するものがほとんどです。しかし、あしあと、ふん、などフイールドサインとよばれるしよこによって、いることがわかるのです。



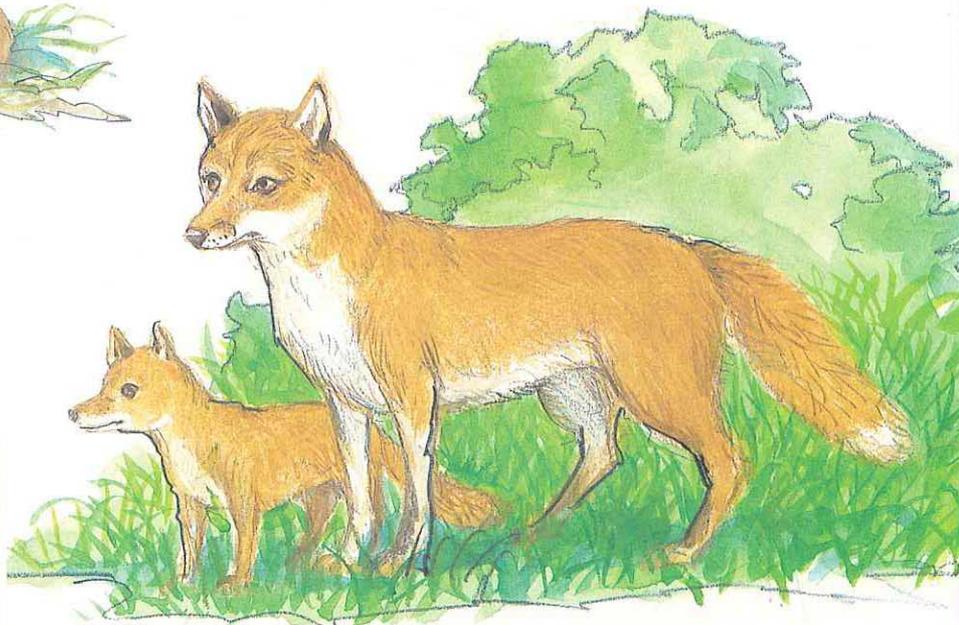
イタチ

「おす」は、あたまからおしりまでの長さ30～35センチくらい。
しっぽの長さ12センチくらい。
たいじゅう400～500グラムくらい。
「めす」は「おす」のはんぶんくらいしかない。
フンはほそ長く、ぶんかいしてみると昆虫^{こんちゅう}をよく食べていることがわかる。



ノウサギ

山^{やま}の草原^{そうげん}におおいが、川^{かわ}辺^べの茎^{くき}の高い草原^{そうげん}やヤブなどにもすんでいる。
寒い地方^{さむいちほう}では、雪^{ゆき}におおわれるころになると毛^けの色^{いろ}が脱色^{だつしき}されて白^{しろ}くなる。
暖^{ぬる}かくなると白^{しろ}い冬毛^{ふゆげ}が抜^ぬけて茶色^{ちしき}の夏毛^{なつげ}がはえる。
暖^{ぬる}かい地方^{ぬるかいちほう}のノウサギはめったに白^{しろ}くはならない。



キツネ

山^{やま}の森^{もり}にすむのがふつうだが、川^{かわ}辺^べの林^{はやし}やヤブなどにもすむ。
川^{かわ}辺^べの土手^{どて}に巣穴^{すあな}をほったりすることがある。
ノネズミやノウサギなどのほかヤマブドウやアケビなども食^たべる。
シッポが太^{ふと}いので、犬^{いぬ}とは見分^{みわ}けがつきやすい。



かわ い まも
川^{かわ}へ行くとき これだけは守^{まも}ってほしい

- ・一人^{ひとり}ではぜったい行^いかない。・友^{とも}達^{だち}とでかけるときも大人^{おとな}の人^{ひと}といっしょに行く。・人のい^いないところでは遊^{あそ}ばない。・行^い先^{さき}はかならずい^いって行く。・人のい^いるところで石^{いし}をなげない。・おやつやおべんとうのあとかたづけはきちんとし、ぜったいちらかさない。
- ・切^きれた釣^{つり}り糸^{いと}なども捨^すてないでもちかえる。



カヤネズミ

頭の先からオシリまでの長さは6センチくらい。
シッポの長さ7.5センチくらいのかわいいねずみだ。
水辺がだいすき、川辺のカヤ原などにすむ、ふつう日当りのよい地上に巣をつくるが、カヤの茎に葉をまきつけて巣をつくったりもする。
ドングリなど木の実、木や草の根などを食べる。



ヌートリア

ネズミ科ではない。げっ歯目、カプロミス科で、体は大きい。
頭の先からオシリまでの長さは、40〜50センチくらいで
シッポの長さは35センチくらい。南アメリカ産だが、毛皮をとるため
輸入されたことがあって、逃げ出したものが野生化したものだ。
おもに水生植物を食べる。泳ぐのがうまく子どもをおんぶして泳ぐ。
岡山県地方で見かけることができるそうだ。



モグラ

河川敷にすむモグラはおおく、地中にはモグラがほったトンネルが
いっぱいある。ミミズや昆虫の幼虫などを食べるが、地上の
カタツムリやカエルなども食べる。



タヌキ

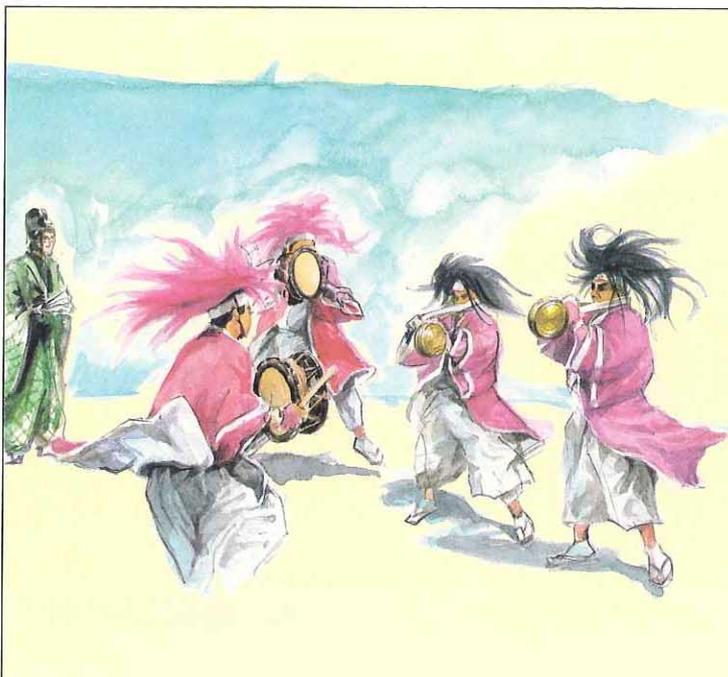
川べのそばに林などがあれば、巣あなをつくることもある。
子犬ほどの大きさで、しっぽはふとい。どうながで、足はみじかい。

川の伝統行事

やすらい祭り (京都市北区紫野/鴨川)

やすらい祭りは、川で直接執り行われるものではありませんが、川の氾濫が招いたとも言えるお祭りなのです。
平安時代、京の都の脇を流れる鴨川が氾濫を起こした折、疫病がまんえんし、多くの人が苦しめられたり死んだりしたという事です。その疫病を恐れた人々が、疫病神を鎮めるために「花鎮めの踊り」を奉納したのが始まりと言われています。

この踊りは「やすらいの踊り」とも呼ばれ、毎年四月の第二日曜日、紫野の今宮神社、玄武神社で、それぞれ組まれたグループによって執り行われます。神社での奉納だけで無く町内にも出ていって踊る伝統行事です。
小鬼二人と大鬼四人が中心となり、花傘、音頭取り、囃し方、それに紅衣の童子、さらに赤毛、黒毛のシャグマを頭につけた若者たちが、無病息災を願って、鉦や太鼓などをふりかざすように打ち鳴らしながら踊ります。



か はん りん 河 畔 林

川にそろうようにして茂る林を河畔林といいます。川辺の木々は、自然環境にとって、とても大切な役割をもっています。林は鳥たちのねぐらになります。木の枝や葉には鳥の餌になる昆虫たちもあつまります。

水面に落ちた昆虫は、魚の餌にもなります。とくに溪流にすむイワナのような動物食の魚にとっては欠かすことはできません。

川底に沈んだ落ち葉は水生昆虫の巣になったり餌にもなります。そしてふえた水生昆虫は魚の餌になります。

餌が多いところには魚があつまります。しかも木々の影が照つける太陽熱をさえぎって涼しく快適な場所です。川面に

つきでた枝はカワセミが魚をねらうとまり木です。このように河畔林のある水辺にはいきいきとした自然のいとなみがあります。

多自然型川づくりといって、できるだけ自然が多い川をつくるころみが現在各地で活発にすすめられています。川の性格や洪水の状態によっては、河畔林が水害を大きくするばあいがあったり、ぎやくに水害を防ぐのに役立つばあいもあるのです。

自然の河畔林をいかし守りながら、治水をするには、どうするのがいいか、いろいろな実験や研究もすすめられています。自然がいっぱいある川が増えるといいね。



河川環境管理財団は

みんなに愛される川であるように、こんな仕事をしています。

- * よりよい水辺のプランニング
- * 楽しく安全に遊べる川づくり
- * 川をきれいに、川を愛する心を育ぐむ運動
- * 未来の水辺を考えた調査や研究
- * せせらぎ・ふれあい基金

●この本は再生紙を使用しています。



・編集発行
財団法人 河川環境管理財団
Foundation of River & Watershed Environment Management
(〒104-0042) 東京都中央区入船1丁目9番12号
TEL. (03) 3297-2600 (代表)
URL: <http://www.kasen.or.jp/>